



株式会社 UACJ

2023 年 3 月期 第 2 四半期決算説明会

2022 年 11 月 8 日

イベント概要

[企業名]	株式会社 UACJ
[企業 ID]	5741
[イベント言語]	JPN
[イベント種類]	決算説明会
[イベント名]	2023 年 3 月期 第 2 四半期決算説明会
[決算期]	2022 年度 第 2 四半期
[日程]	2022 年 11 月 8 日
[ページ数]	38
[時間]	16:00 – 17:00 (合計：60 分、登壇：30 分、質疑応答：30 分)
[開催場所]	インターネット配信
[会場面積]	
[出席人数]	87
[登壇者]	6 名 代表取締役 社長執行役員 石原 美幸 (以下、石原) 取締役 副社長執行役員 川島 輝夫 (以下、川島) 取締役 常務執行役員 構造改革本部長 田中 信二 (以下、田中)

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



執行役員 経営戦略本部長

隈元 穰治（以下、隈元）

執行役員 財務本部長

飯田 晴央（以下、飯田）

財務本部 IR 部長

上田 薫（以下、上田）

[アナリスト名]*

SMBC 日興証券

山口 敦

UBS 証券

五老 晴信

モルガン・スタンレーMUFG 証券

白川 祐

野村証券

松本 裕司

大和証券

尾崎 慎一郎

*質疑応答の中で発言をしたアナリストの中で、SCRIPTS Asia が特定出来たものに限る

サポート

日本

050-5212-7790

米国

1-800-674-8375

フリーダイヤル

0120-966-744

メールアドレス

support@scriptsasias.com



登壇

上田：ご参加の皆さま、大変長らくお待たせいたしました。

本日は大変お忙しい中、株式会社 UACJ、2022 年度第 2 四半期決算説明会にご参加いただき、誠にありがとうございます。

この説明会は、株式会社 UACJ のホームページに掲載されております説明資料を使って行います。お手元に資料をご用意されていない方がいらっしゃいましたら、お手数ですがホームページをご覧ください。

なお、この説明会では、将来予測を含む情報が提供されることがありますが、これらの情報は当社の現時点での予測に過ぎません。さまざまな要因により、実際に業績がこれら将来予測と大きく異なる場合がありますので、ご留意ください。

では、本日の当社出席者をご紹介します。

代表取締役社長執行役員、石原美幸です。

石原：石原でございます。よろしく願いいたします。

上田：取締役副社長執行役員、川島輝夫です。

川島：川島です。本日はよろしく願いいたします。

上田：取締役常務執行役員、構造改革本部長、田中信二です。

田中：田中です。よろしく願いします。

上田：執行役員、経営戦略本部長、隈元穰治です。

隈元：隈元です。よろしく願いいたします。

上田：執行役員、財務本部長、飯田晴央です。

飯田：飯田です。よろしく願いいたします。

上田：私は、本日司会を務めます、財務本部 IR 部長、上田薫でございます。どうぞよろしく願いいたします。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



それでは、本日発表いたしました、2022 年度第 2 四半期業績、また通期業績見通しにつきまして、社長の石原よりご説明させていただきます。プレゼンテーション資料をご覧くださいながらご参加ください。

石原社長、よろしくお願いいたします。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



発表のポイント

上期 前年同期比増収、棚卸資産影響前経常利益増益 139億円(前年同期比+7億円)
22年度通期業績見通しについても増収、棚卸影響前経常利益増益 235億円

- 1 ■ 2022年度 上期 総括
 - ✓ 上期については社内の計画に対して上振れ、前年同期比増益
 - ✓ 国内:自動車関連が市況影響を受けたが、缶材・厚板・一般材の販売が増加
 - ✓ 海外:旺盛なグローバル缶材需要(特に北米)を捉え、TAA^{*1}/UATH^{*2}ともに増益
- 2 ■ 2022年度 通期業績見通し
 - ✓ 外部環境の変化があるものの、当社の強みを活かし**実力利益235億円は予定通り**
 - ✓ 強みである「3極連携」、「強固な顧客基盤」、「多品種・用途への対応力」を活かして対応
 - ✓ アルミ地金価格、北米金利上昇、自動車関連の需要動向などをリスク要因として注視
- 3 ■ 構造改革の進捗
 - ✓ 各施策については予定通り進捗
 - ✓ 構造改革効果**210億円**

*1 TAA : Tri-Arrows Aluminum Inc.
*2 UATH : UACJ (Thailand) Co., Ltd.

©UACJ Corporation. All rights reserved.

1

石原：それでは、2022年度第2四半期の決算説明をさせていただきます。

資料を開いていただきまして、1ページ目の発表のポイントについて整理させていただきます。

上期におきましては、前年同期比で増収、棚卸資産影響前経常利益、当社にとっての実力の損益におきましては、前年同期比でプラス7億円の増益となっております。2022年度通期での見通しにつきましても増収、そして同じく棚卸影響前経常利益においては予定どおり235億円を目指します。

それでは、上期、通期、構造改革についてポイントをご説明申し上げます。

上期総括ですが、上期においては、社内の計画に対して上振れすることができ、前年同期比で増益となっております。

市場においては、国内では自動車関連事業が市況影響を受けておりますが、その他、当社の強みである缶材・厚板・一般材の販売が増加いたしました。

一方、海外においては、特に北米での旺盛なグローバル缶材需要によって、TAA/UATHともに増益となっております。

通期での見通しについては、今後も多くの外部環境の変化が予想されますが、当社のさまざまな強みを活かして、実力利益である棚卸影響前経常利益を235億円といたしております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



強みとは、日本、東南アジア、北米、この3極による缶材の連携、あるいは日本を中心とする強固な顧客基盤、そして、それにお応えできる多品種・多用途への対応力の活用であります。

今後先行きは依然不透明ではありますが、アルミニウム地金の価格、米国の金利上昇、自動車関連の需要動向など、さまざまなリスクを注視してまいります。

三つ目の構造改革の進捗ですが、各施策は予定どおり進捗し、目的効果も上げております。

構造改革効果においては、目標の210億円達成のめどが立ちました。

外部環境の変化と対応について

外部事業環境の変化への対応継続、収益へのインパクトの最小化を図る

外部環境の変化と対応	国内 	TAA(米国) 	UATH(タイ) 
アルミニウム地金価格の上昇	販売価格に転嫁		
エネルギー価格の高騰	販売価格への転嫁交渉は 大方のお客様で合意	販売価格への転嫁を実施 (市場価格連動の 価格スキームを 導入済)	新規契約 市場価格連動の 価格スキームを 導入済 既存契約の見直し 一部のお客様と エネルギー価格高騰分 の転嫁を合意
添加金属価格の高騰	添加金属を多く含む製品について、市場価格に連動した価格スキームを 導入済		
物流費の上昇	—		販売価格への転嫁を実施 (フォーミュラ制を 導入済)

© UACJ Corporation. All rights reserved.

2

2 ページ目に、外部環境の変化と当社の対応についてまとめております。

外部環境におきましては、アルミニウム地金価格、エネルギー価格、添加金属価格、物流費において、国内、米国、タイにおける対応状況をまとめております。

昨年から今日まで著しく地金価格が変動しております。こういった大幅に変動する場合において、棚卸資産影響、あるいは地金価格が製品価格に転嫁されるまでのタイムラグが業績に大きく影響を及ぼします。昨年、そして2022年においてもこの状況が続いております。

エネルギー価格の高騰、添加金属の高騰につきましては、既に導入済みであったり、今後導入の方向であったりと、お客様との合意はほぼ得られております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

目次

1. 2022年度 上期業績

2. 構造改革の進捗

3. 2022年度 通期業績見通し

4. サステナビリティへの取り組み

5. ご参考データ

©UMCJ Corporation. All rights reserved.

3

それでは、3 ページ目のとおり、上期業績、構造改革、通期の見通し、そして今後の当社の成長を支えていくサステナビリティの取り組みについてお話をさせていただきます。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



上期 棚卸資産影響前経常利益 139億円(前年同期比 +7億円)

上期 経常利益 207億円(前年同期比 △51億円)

■ 数量 : 683千トン 前年同期比 +33千トン

- ・ 缶材:UATH(タイ)、TAA(米国)が引き続き増加
- ・ 厚板:半導体製造装置向けの需要が増加
- ・ 一般材:エアコンフィン材は世界的なエアコン需要の取り込み、印刷版材は国内回帰により増加
- ・ 自動車関連(自動車材、箔、IT材):半導体不足や世界的なサプライチェーンの混乱の影響を受ける

■ 棚卸影響前経常利益 : 前年同期比 +7億円

◎増益要因(構造改革効果を含む)

- ・ 国内事業業績改善
- ・ UATH業績改善
- ・ TAA業績好調継続

△減益要因

- ・ エネルギー価格の上昇

©UMCJ Corporation. All rights reserved.

5

開いていただいて、5 ページ目、上期の業績サマリーであります。

上期の棚卸資産影響前経常利益は 139 億円、前年同期比でプラス 7 億円となっております。

数量においては、前年同期比でプラス 3 万 3,000 トンの販売ができております。

この中で、缶材においては、タイ、北米が引き続き増加し、また半導体製造装置向けの厚板は日本を中心として、需要が増加いたしました。

そして、当社の強みのひとつである一般材において、エアコン用の塗装フィン材、これは世界的なエアコン需要に伴う取り込みができました。そして、特徴的なのは、印刷版にあるような国内回帰による増加であります。

自動車関連においては、自動車材、箔、IT 材が、半導体不足や世界的なサプライチェーンの混乱の影響を受けております。

こういったこともありました。当社の強みを活かしながら、3 万 3,000 トンの販売増を達成することができました。

棚卸影響前経常利益における増益要因、減益要因は、スライドに示すとおりであります。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

1. 2022年度 上期業績

上期 業績

(単位:億円)

	2021年度 上期 (A)	2022年度 上期 (B)	増 減 (B) - (A)
連結売上高	3,650	4,898	1,247
連結営業利益	299	215	△84
棚卸資産影響前 連結経常利益	132	139	7
棚卸資産影響額	126	68	△58
連結経常利益	258	207	△51
連結当期純利益 ^{*1}	173	152	△21
Adjusted EBITDA ^{*2}	327	314	△13

^{*1} 連結当期純利益:親会社株主に帰属する当期純利益

^{*2} Adjusted EBITDA: EBITDA - 棚卸評価関係

6

6 ページ目では、上期の業績をまとめております。

上期の売上高は対前年同期比で 1,247 億円の増収、そして棚卸資産影響前連結経常利益は 7 億円の増益となっております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



1. 2022年度 上期業績

セグメント別 売上高・営業利益

(単位:億円)

	2021年度 上期 (A)		2022年度 上期 (B)		増減 (B) - (A)	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
アルミ圧延品	3,269	326	4,382	245	1,114	△81
加工品・関連事業	765	2	956	△0	190	△2
(調整額)	△384	△29	△441	△30	△57	△1
合計	3,650	299	4,898	215	1,247	△84

©UMCJ Corporation. All rights reserved.

7

7 ページ目では、セグメント別の売上高・営業利益についてご説明申し上げます。

アルミ圧延品の動きについては後ほど全体としてお示しいたしますので、このページでは加工品・関連事業についてご説明申し上げます。

売上高においては、エアコンを含め、空調関係品の販売の好調があったほか、アルミニウム地金価格上昇があり、売上高は前年同期比で約 25%増となっております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



1. 2022年度 上期業績

アルミ板 品種別売上数量

(単位:千トン)

品 種	2021年度 上期 (A)	2022年度 上期 (B)	増 減 (B) - (A)
缶 材	409	447	38
箔 地	29	24	△6
I T 材	7	5	△2
自動車材	73	59	△14
厚 板	25	29	4
その他一般材	107	118	12
合 計	650 国内市場向け 245 海外市場向け 405	683 国内市場向け 244 海外市場向け 439	33 国内市場向け △1 海外市場向け 34

©UMCJ Corporation. All rights reserved. ※内部取引控除後の数量

8

8 ページ目では、アルミ板における品種別の売上数量を示しております。

ここにございますように、缶材、厚板、その他一般材において増加しておりますが、箔地、IT材、自動車材といった自動車関連の分野においてマイナスとなっております。

しかしながら、トータルでは3万3,000トンの増加をすることができました。特に海外における缶材の増加が著しく、好転に影響しております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



棚卸資産影響前連結経常利益分析（2021年度上期 → 2022年度上期）

上期棚卸資産影響前連結経常利益：132億円（2021年度上期） → 139億円（2022年度上期）

（棚卸資産影響額：126億円（2021年度上期） → 68億円（2022年度上期） △58億円）



© UACJ Corporation. All rights reserved.

9

9 ページ目では、棚卸資産影響前連結経常利益の分析をいたしております。2021 年度と 2022 年度の上期同士の比較であります。

2021 年度上期の実力利益は 132 億円でした。2022 年度の上期における実力利益は 139 億円となり、プラス 7 億円となっております。

個別の要因についてご説明申し上げますと、UATH の業績改善が 22 億円あります。主にロールマージンの改定、あるいは為替の影響が多くございます。

TAA、北米の業績改善がプラス 37 億円です。特に販売の増加、メタルベネフィットによる効果、そして為替換算差等が業績改善の要因になります。

国内における販売関係差は 16 億円プラスとなっております。内訳は、板単体では 23 億円のプラスとなっておりますが、押出、その他で 8 億円のマイナスです。一方で、特徴的なのは製箔で 1 億円のプラス、中身はロールマージンの改定が大きく貢献しました。

エネルギー・添加金属の価格転嫁においては、上期は添加金属の価格転嫁が進み、14 億円中 12 億円を占めております。減益の要因として大きいのが、UWH、北米の自動車部品事業になります。マイナスの 12 億円です。これは後ほど個別にご説明申し上げます。

大きいのが、エネルギー、添加金属の価格差であります。電力、燃料、あるいは添加金属の価格差でマイナス 66 億円が出ております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

価格決定構造の見直しによって、これは今後改善がなされてまいります。通期での数字にも改善の影響が出てまいります。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



連結貸借対照表、資金運用表

財務基盤の源泉となる長期資金は増加も、アルミ地金高騰により短期資金は不足

連結貸借対照表

(単位:億円)	22/3末 (A)	22/9末 (B)	増減額 (B-A)
現金及び預金	143	211	68
受取手形及び売掛金	1,227	1,414	187
棚卸資産	2,324	2,664	341
その他流動資産	252	383	131
有形・無形固定資産	3,985	4,228	243
投資その他の資産	356	392	36
資産合計	8,287	9,293	1,006
支払手形及び買掛金	1,186	1,177	△8
短期借入金	1,419	2,085	666
長期借入金	1,975	1,805	△170
その他	1,231	1,284	53
株主資本合計	2,090	2,201	111
その他包括利益	190	505	315
非支配株主持分	196	236	40
負債及び純資産合計	8,287	9,293	1,006

© UACJ Corporation. All rights reserved.

資金運用表

	用途	調達		
長期資金	設備投資	130	税引前利益	200
	法人税支払	71	減価償却費	182
	長期資金余剰	181		
短期資金	運転資金増加	345	短期資金不足	345

長期資金余剰 181億円
短期資金不足 345億円
FCF △ 165億円

長期資金:財務基盤の強化の源泉となる資金の創出
短期資金:アルミ地金価格等高騰による運転資金の増加

10

10 ページ目では、連結貸借対照表、資金運用を示しております。

現預金の 68 億円増加、あるいは棚卸資産の 341 億円の増加、そして有利子負債においては短期で 666 億円増加し、長期では 170 億円減少するなど、株主資本においても 111 億円の増加となりました。

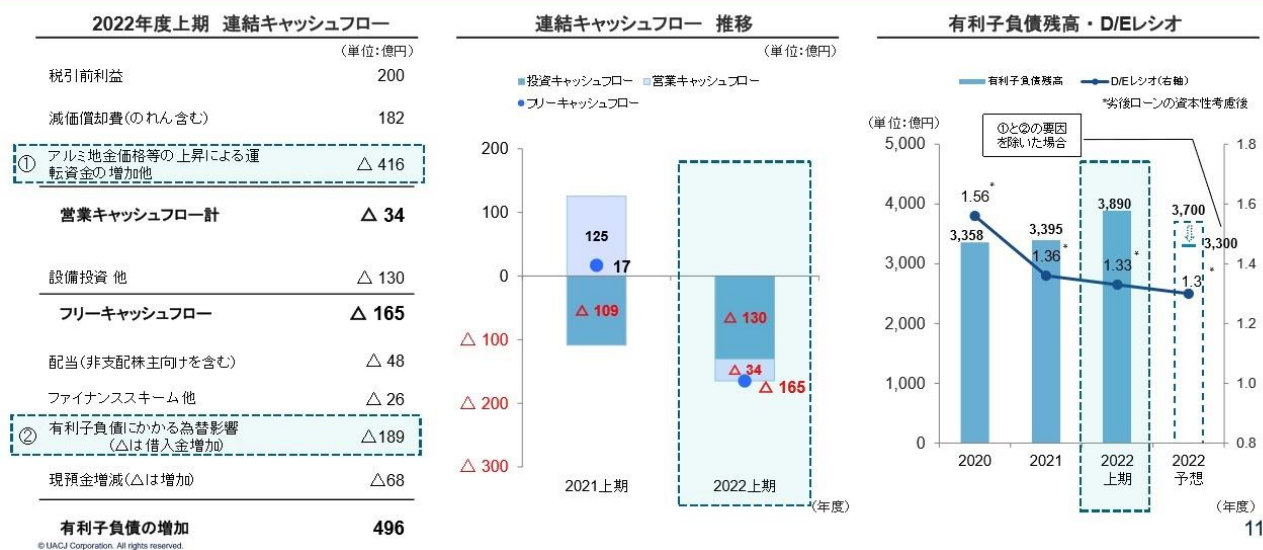
資金運用を右上の表で見いただきますと、長期の資金余剰が 181 億円あります。一方、アルミ地金高騰等によって短期で資金が必要になりましたので、短期資金として 345 億円が不足いたしました。結果として、フリーキャッシュフローについては 165 億円のマイナスとなっております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

連結キャッシュフロー計算書

アルミ地金、添加金属等の価格上昇で運転資金が増加したことにより営業CFが減少



11 ページ目では、連結キャッシュフローを表しております。

営業キャッシュフローがマイナス 34 億円、そのうちアルミニウム地金の価格上昇による運転資金の増加が 416 億円ございました。投資キャッシュフローはマイナス 130 億円です。従って、フリーキャッシュフローは 165 億円の赤字となっております。

一方、有利子負債においては、一番右のグラフにございますように、2022 年度第 2 四半期時点では 3,890 億円となります。今時点での 2022 年度末見通しでは、およそ 3,700 億円を見込んでおりますが、現在のアルミニウム地金価格の高騰、あるいは為替影響がなかった場合を見ますと、当初の予定どおり 3,300 億円が達成できる予定でありました。先ほどの要因もありますので、3,700 億円と見直しております。

一方、D/E レシオについては、1.3 倍が、めどとして達成可能な状況が見えております。

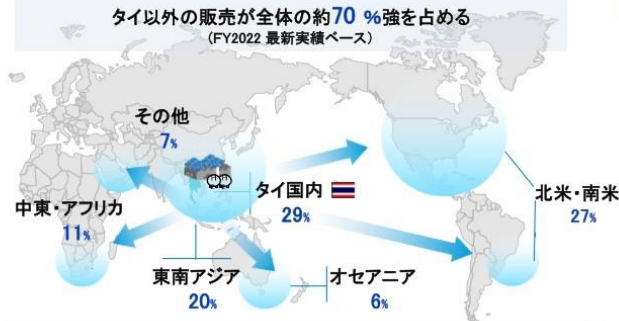
サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

タイ(UATH)の状況 ~2022年度上期 総括

グローバルでの旺盛な缶材需要、エアコンフィン材需要の取り込みにより増収増益

販売展開エリアの販売比率(世界25カ国)



収益変動要因と改善への打ち手

- エネルギーコストの高騰
- 海運コストをはじめとした物流コストの高騰
- 添加金属価格の高騰
- 物流コスト、添加金属の高騰分はおおよそお客様と合意
- エネルギーコスト高騰分の転嫁は一部のお客様と合意

©UMCJ Corporation. All rights reserved.

上期 総括

- 需要** : 世界的な半導体不足による自動車生産調整の影響あるも、缶材・フィン材の堅調な需要は継続
- 販売** : 好調な缶材に加え、エアコンフィン材の販売好調
- 生産量** : 27千t/月(2022年1~6月)
- 販売量** : 27千t/月(2022年1~6月)

損益	(単位:億円)		
	21年度 上期	22年度 上期	前年同期比
売上高	592	973	381
営業利益	34	51	17
棚卸資産影響前 経常利益	△ 5	17	22
経常利益	10	33	23

12

12 ページ目以降からは、各拠点の状況をお話しします。

タイは、缶材以外にも旺盛なエアコン用の塗装フィン材需要を取り込むことによって、売上高、あるいは棚卸資産影響前経常利益も前年同期比で好転いたしております。

引き続き、グローバルでの、中長期のアルミ缶材需要を中心にして成長していく見通しでございます。そして、エアコンフィン材を含めた一般材の販売も、今後も最大限対応してまいります。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

旺盛な米国缶材需要を捉え、増収・増益(棚卸影響前経常利益)

米国飲料缶販売予測推移



©UMCJ Corporation. All rights reserved. *CAGR :複数の期間に渡る増加率を単位期間あたりの増加率で表したものの、年平均成長率

上期 総括

缶材需要 : 長期的に旺盛な需要環境継続

販売量 : **45千t/月** (2022年4~9月)
※国内・UATH出荷分含む

生産能力 : 約**450千t/年**体制確立

増産対応 : 北米生産拠点の設備増強を検討中

損益	21年度 上期	22年度 上期	前年同期比
売上高	1,108	1,556	448
営業利益	163	68	△95
棚卸資産影響前 経常利益	57	94	37
経常利益	151	53	△98

(単位:億円)

13

13 ページ目が、北米 (TAA) の状況でございます。

北米においては、引き続き缶材の需要は旺盛であり、かつ容器のアルミニウム化が促進されております。現在では、ミネラルウォーターへの一部採用なども始まるということがあります。

ただし、短期的には、コロナ禍において懸念されました海上輸送、こういったサプライチェーンの混乱の影響が解消されてきた等々がありまして、一時的な缶材需要の減退が見られますが、これは一時的なものと考えられます。缶材メーカー各社の新ライン立ち上げ状況が予定どおり順調に進行しているからであります。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

米国(UWH)の状況 ~2022年度上期 総括

受注済大型案件の生産が始まるも、自動車生産混乱の影響を受ける

UWH 売上高推移(単位:億円)



*1 20年度…2020年1月~12月
*2 21年度…2021年4月~2022年3月

©UMCJ Corporation. All rights reserved.

上期 総括

市場環境 : 2035年内燃機関車の販売禁止と、米国政府の政策により、米国内生産のEV需要は増加

販売 : 上期は半導体不足等によるお客様生産稼働状況の影響を受ける
下期以降、上記要因の解消に伴って、収益は改善が見込まれる

生産体制 : 新ラインは稼働準備が整うとともに、自動化、コスト削減などの施策を実施

損益 : (単位:億円)

	21年度 上期	22年度 上期	前年同期比
売上高	102	175	73
営業利益	△ 8	△ 17	△ 9
棚卸資産影響前 経常利益	△ 9	△ 21	△ 12
経常利益	△ 9	△ 21	△ 12

14

14 ページ目では、UWH の状況についてお示ししております。

上期においては、半導体不足等によってお客様の生産の立ち上がりに影響がありましたが、日系 OEM での量産が 5 月以降に開始され、これへの対応が始まりました。併せて、4 クォーター以降、米系 EV 車メーカーの立ち上がりが始まりますので、これに対応してまいります。

新ラインが立ち上がり、アルミ製バンパーの全自動溶接化、これが世界初の快挙であるというようなお客様からのご評価もいただいております。今後量産化に向けて UWH の生産に期待します。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

2. 構造改革の進捗

構造改革の進捗

コロナ禍でのお客様認定遅れ解消、生産拠点集約遅延がキャッチアップ

施策	2019年度		2020年度				2021年度				2022年度			
	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
生産拠点集約			★深谷下工程 一部停止		日光閉鎖完了★							★ 深谷自動車材移管完了 (一般材の受注対応により設備稼働継続)		
			押出小山/名古屋プレス集約★											
			移管・品質確認・人員再配置調整											
							集約効果							集約効果のフル貢献
大型投資	UATH	3期設備 品質確認・生産量拡大		販売 32万トン/年 体制										
	TAA	★新冷延 稼働 品質確認		販売 45万トン/年 体制										
不採算分野/ ノンコア分野撤退		売却・撤退候補分野の撤回検討		売却・撤退の実施				継続的な撤退の検討						
マネジメント	取締役・ 役員体制見直し	新体制検討		新体制準備		新体制での運営								
	組織・権限・ コーポレート 機能改革	マスタープラン・ ロードマップ策定		詳細設計				改革実行フェーズ						
	コーポレート 機能改革	見直し案の策定		浸透活動										
理念・価値観の 再確認と再構築	見直し案の策定		浸透活動											

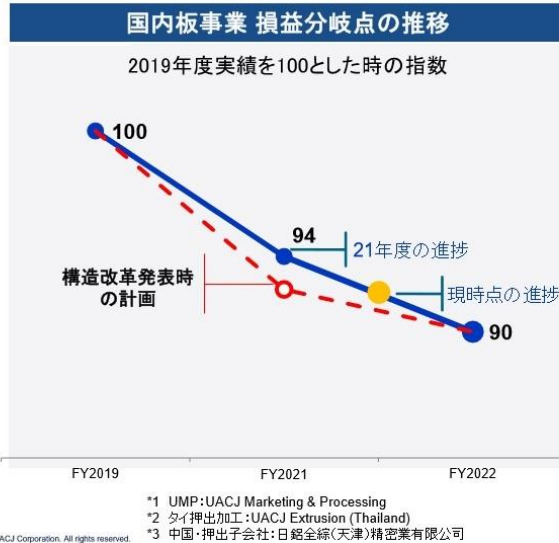
© UACJ Corporation. All rights reserved.

16

2. 構造改革の進捗

構造改革施策の効果

損益分岐点は今までの構造改革の取り組みにより、着実に下がってきている



© UACJ Corporation. All rights reserved.

主要施策の進捗

- 生産拠点の集約化による固定費削減・稼働率向上
 - ・日光製造所閉鎖→自動車熱交材のUMP¹への集約 → 完了
 - ・名古屋/福井へ集約 → 22年度未完了
 - ・押出小山/名古屋 プレス集約と最適化 → 活動中
- 採算性の向上
 - ・注力・成長分野への対応 → 活動中(計画通り)→進展情報
 - ・低採算分野の是正・撤退 → 活動中(大半は実施済)
 - ・値決め構造の是正(追加施策) → 実施済み、想定通りの効果顕現
- 選択と集中
 - ・英国圧延事業 ブリッジノースから撤退 → 完了(2022年3月)
 - ・タイ押出加工² アユタヤ工場閉鎖 → 完了(2022年1月)
 - ・中国・押出子会社³ 出資持分一部譲渡手続き → 完了(2021年12月)
 - ・中国・金屬加工子会社(無錫)閉鎖決定(2022年11月)
- 最適生産体制の構築
 - ・自動車材の生産性向上 → 計画通り
 - ・福井新CALP(自動車材仕上げライン)活用による製造所間の品種/工程分担の見直し、最適化 → 22年度未完了
- 間接費用の削減
 - ・間接人員の削減等 → 計画通り
 - ・IT化投資等による業務プロセスの改善 → 活動中(計画通り)

17

構造改革について、これから16ページ目以降でご説明申し上げますが、ほぼ予定どおり進捗しております。

進捗のあったものについては、17ページになります。

採算性の向上ということで、値決め構造の是正が進んでおります。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



選択と集中においては、英国あるいは中国における進捗がございます。

最適生産化においては、自動車材の生産拠点の集約がほぼ完了して、下期以降の貢献が見込まれます。

サポート

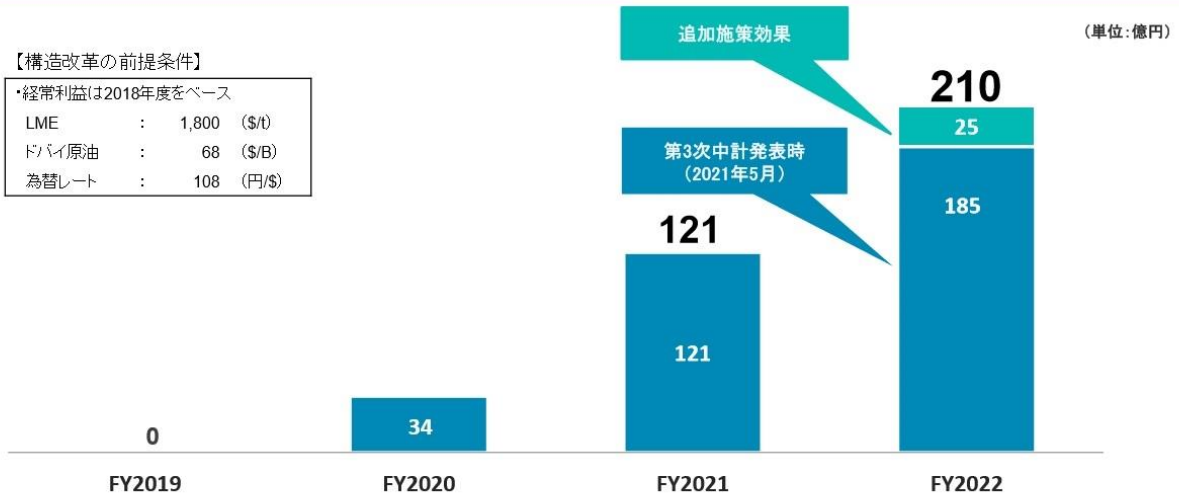
日本	050-5212-7790	米国	1-800-674-8375
フリーダイヤル	0120-966-744	メールアドレス	support@scriptasia.com



2. 構造改革の進捗

構造改革施策の推移

生産拠点の集約をキャッチアップ、追加施策実施で210億円に目処



© UACJ Corporation. All rights reserved.

18

それは、18 ページ目に示すように、計画どおりの 210 億円の達成めどにつながっております。

2. 構造改革の進捗

構造改革実施による収益改善効果

ロールマージン改定や製造コストダウン等の施策実施で、210億円達成は必ず実現させる

	構造改革発表時 (2019年9月)	第3次中計発表時 (2021年5月)	2021年度 決算発表時 (2022年5月)	最新見通し
国内 : 収益構造改革	+100億円	+67億円	+101億円	+101億円
生産拠点集約	+40億円	+34億円	+21億円	+21億円
最適生産体制・品種構成改善(自動車材・電池材増加)	+50億円	+25億円	+70億円	+70億円
間接費削減(間接人員削減等)	+10億円	+8億円	+10億円	+10億円
海外 : 大型投資収益化	+110億円	+118億円	+109億円	+109億円
UATH 第3期投資稼働開始で、販売量拡大とコスト削減	+70億円	+76億円	+70億円	+70億円
TAA 増産投資完了による販売量増加、価格改定実現	+20億円	+19億円	+24億円	+46億円
UWH 収益性重視の受注、押出機を生かし売上拡大	+20億円	+23億円	+15億円	△7億円
構造改革効果	+210億円	+185億円	+210億円	+210億円

© UACJ Corporation. All rights reserved.

19

19 ページ目には、構造改革における収益の状況を示しております。

個別の変動はありますが、トータルでの達成はめどが立ちました。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



経営環境認識

全体	<ul style="list-style-type: none"> ● 消費者の環境意識向上にともなってグローバルで缶材、自動車材を中心としたアルミニウム素材の需要は増加 ● 「6事業連携」や「強固な顧客基盤」「多品種・多用途への対応力」を活かし増加する需要を取り込む
缶材	<p>中長期的には、グローバルで旺盛な需要が継続 下期については、一時的にサプライチェーン混乱で生じた過剰在庫消化の影響を受ける</p>
自動車材	<p>中長期的には、環境性能向上のための軽量化や、EV化によって需要は増加 下期については、サプライチェーン混乱による自動車生産減が収束に向かうが、3Qはその影響が残る</p>
その他	<p>厚板: 半導体製造装置向けは中長期では需要は堅調 エアコンフィン材: エアコン需要が増加しており、エアコンフィン材の需要も堅調 印刷版材: 国内回帰の需要を取り込みにより堅調に推移</p>

© UACJ Corporation. All rights reserved.

21

21 ページ目において、経済環境および当社の対応についてご説明申し上げます。

消費動向については、グローバルで缶材、自動車材を中心として、アルミ素材は大変需要が増加いたします。

当社は、6事業における連携や強固な顧客基盤、そして多品種・多用途への対応可能という強みを活かして、これに取り組んでまいります。

缶材、自動車材、その他一般材についてはスライドをご参照ください。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

3. 2022年度 通期業績見通し

2022年度 通期業績見通し(前年度比 増収、棚卸資産影響前連結経常利益増益)

(単位:億円)	2022年度 (5月時見通し) (A)	2022年度 (最新見通し) (B)	2021年度 (実績) (C)	増減 (B)-(A)	増減 (B)-(C)
連結売上高	9,400	9,000	7,829	△400	1,171
連結営業利益	310	210	595	△100	△385
棚卸資産影響前 連結経常利益	235	235	213	0	22
棚卸資産影響額	20	△80	310	△100	△390
連結経常利益	255	155	523	△100	△368
連結当期純利益	150	100	321	△50	△221
Adjusted EBITDA	628	628	602	0	26
年間配当	85円/株	85円/株	85円/株	—	—

©UMCJ Corporation. All rights reserved.

22

22 ページ目には、通期での業績見通しをお示ししております。

連結売上高では増収になり、棚卸資産影響前連結経常利益は期初計画の 235 億円を達成する見込みでございます。

Adjusted EBITDA についても、対前年度で 26 億円の増加となります。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



3. 2022年度 通期業績見通し

アルミ板 品種別売上数量(最新見通し)

(単位:千トン)

品 種	2022年度 (5月時見通し) (A)	2022年度 (8月時見通し) (B)	2022年度 (最新見通し) (C)	2021年度 実績 (D)	増 減 (C) - (A)	増 減 (C) - (B)	増 減 (C) - (D)
缶 材	891	904	904	816	13	△1	88
箔 地	58	56	47	56	△11	△9	△9
I T 材	18	16	11	14	△7	△4	△3
自動車材	154	143	128	138	△25	△15	△10
厚 板	60	60	58	53	△2	△2	5
その他一般 材	238	237	240	216	2	3	24
合 計	1,419 国内市場向け 541 海外市場向け 878	1,416 国内市場向け 525 海外市場向け 891	1,389 国内市場向け 494 海外市場向け 895	1,293 国内市場向け 479 海外市場向け 815	△30 国内市場向け △48 海外市場向け 17	△27 国内市場向け △31 海外市場向け 4	96 国内市場向け 15 海外市場向け 80

©UMCJ Corporation. All rights reserved.

23

23 ページ目には、アルミ板における品種別の売上動向の予想を示しております。

これは上期と同様、缶材、厚板、その他一般材において堅調に推移をする見込みでございます。

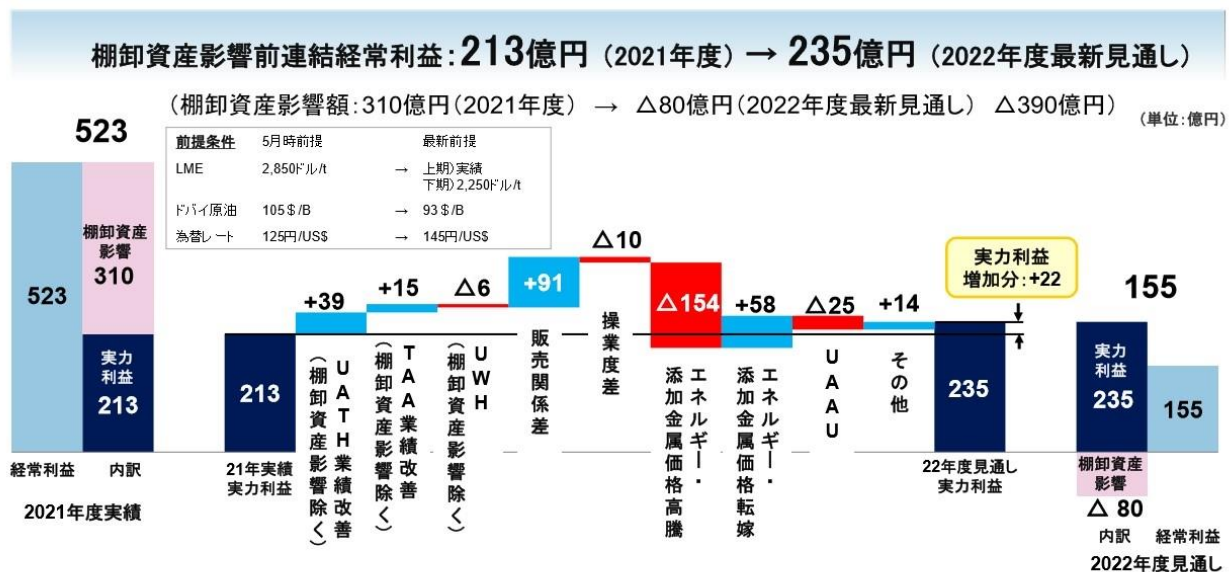
上期における自動車材、箔地、IT 関連の自動車関連の分野においては、現在の状況が続くと見ております。しかしながら、4 クォーター以降改善が見込まれておりますので、その他の強みを活かしながら、トータルで9万6,000 トンの、対前年度での増産販売を見込んでおります。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



棚卸資産影響前連結経常利益分析（2021年度 →2022年度最新見通し）



©UMCJ Corporation. All rights reserved.

24

24 ページ目には、2021 年度から 2022 年度における棚卸資産影響前連結経常利益の推移を示しております。

213 億円から 235 億円へのプラス 22 億円を見込んでおります。増益要因は、主に UATH の業績の改善であります。プラス 39 億円のうち、販売増加、生産性改善が主なものでございます。

TAA の業績改善はプラス 15 億円です。要因は、販売増加、ないしメタルベネフィットの増加であります。

販売関係差は、国内においては 91 億円を見込んでおり、そのうち板事業単独で 77 億円を見込んでおります。

エネルギー・添加金属の価格転嫁においては、エネルギーの転嫁が下期から始まります。合わせてプラス 58 億円の増加を見込んでおります。

減益要因は、UWH のマイナス 6 億円です。先ほど申しましたように、下期において改善が進んでまいります。

エネルギー・添加金属の単価差がマイナス 154 億円と出ておりますが、先ほどの増益要因にありましたように、エネルギーにおいて転嫁が進んでまいります。

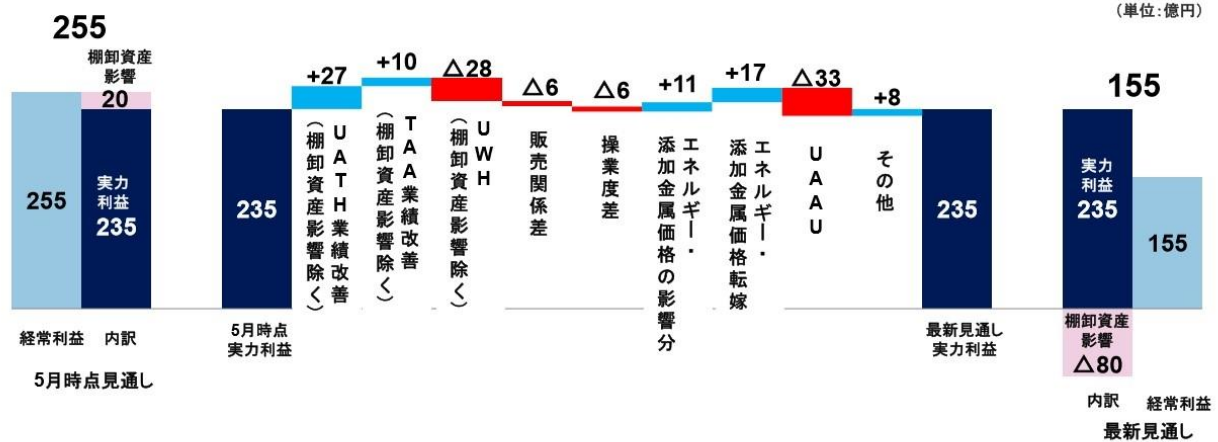
サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

棚卸資産影響前連結経常利益分析 (2022年5月見通し → 2022年度最新見通し)

棚卸資産影響前連結経常利益: **235億円** (2022年5月時見通し) → **235億円** (2022年度最新見通し)

(棚卸資産影響額: 20億円(2022年5月時見通し) → Δ 80億円(2022年度最新見通し) Δ 100億円)



25 ページ目に、2022 年 5 月時点の見通しと、現在の 2022 年最新見通しの比較をいたしております。ご参照願いたいと思います。

設備投資・減価償却費

設備投資額は減価償却の7割を維持
気候変動対策等へ一定額を配分し、計画的に進める

(単位: 億円)		2021年度 上期	2021年度 通期	2022年度 上期	2022年度 見通し
設備投資	一般投資	76	128	73	255
	戦略投資	34	79	28	68
	合計	110	207	101	323
減価償却費		169	340	182	347

26 ページ目は、設備投資関連です。

減価償却の範囲内で実行いたしております。

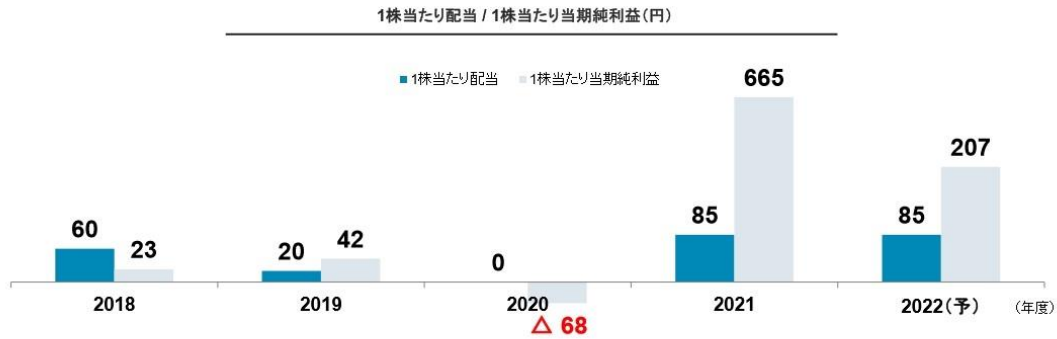
サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

株主還元

1株当たり配当金は85円で据え置く

- 還元方針 : 長期的な総還元性向は30%以上を目標とする
- 配当 : 連結配当性向20~30%を目途に、安定的かつ継続的な配当を目指す
- 株式価値の向上 : 確実な利益・キャッシュフローの確保、資本市場との対話で価値向上を目指す



©UMCJ Corporation. All rights reserved.

27

27 ページ目は、株主還元でございます。

予定どおり、配当は 85 円で据え置きます。

28 ページ目以降、サステナビリティへの取り組みについてご紹介をいたしております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

4. サステナビリティへの取り組み

企業理念とサステナビリティ基本方針

UACJグループ理念

素材の力を引き出す技術で、持続可能で豊かな社会の実現に貢献する。



企業理念

素材の力を引き出す技術で、持続可能で豊かな社会の実現に貢献する。

目指す姿

アルミニウムを究めて環境負荷を減らし、軽やかな世界へ。

価値観

- ▶ 相互の理解と尊重
- ▶ 誠実さと未来志向
- ▶ 好奇心と挑戦心

サステナビリティ基本方針

「100年後の軽やかな社会のために」

© UACJ Corporation. All rights reserved.

29

4. サステナビリティへの取り組み

“UACJ VISION 2030” で目指す社会課題の解決

アルミニウムを究めて、サステナブルな社会の実現に貢献する



© UACJ Corporation. All rights reserved.

30

当社が目指す、アルミニウムを究めて環境負荷を減らした、軽やかな社会の実現に向けて、「100年後の軽やかな社会のために」という基本方針のもと、30 ページ目にございますように、6つのマテリアリティを特定し、KPI を達成するとともに、4つのSDGs へのつながりを表現いたしております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



モビリティ、ライフスタイル・ヘルスケア、環境・エネルギーの分野で、アルミニウムの活用を促進し、循環型社会の構築に向けて取り組んでまいります。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



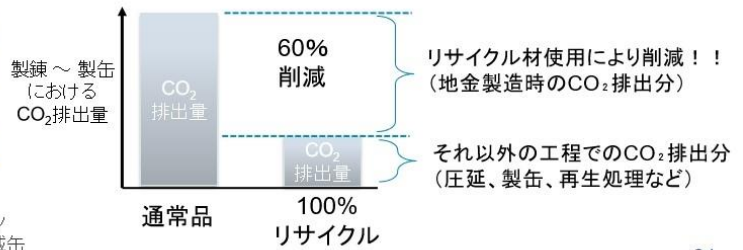
社会課題の解決 - 「100%リサイクル缶」による環境負荷低減へ

サントリー「ザ・プレミアム・モルツ」に100%リサイクルアルミ材の使用で、CO₂排出量を約60%削減



- ✓ 世界初の100%リサイクル缶を、サントリー株式会社・東洋製罐グループホールディングス株式会社と共同で実現
- ✓ 新地金を使用せず、缶胴、フタ、タブ材のすべてをUBC(使用済飲料缶)やアルミ缶材の製造工程で生じた端材を使用
- ✓ 環境負荷低減を見据え、選別や分離、アルミ板製造工程などに特別な管理を行うことにより、100%リサイクルアルミ缶用板材を製造

【製錬から製缶までのCO₂排出削減のイメージ】



31 ページ目には、その具体例であります、100%リサイクル缶についてご紹介いたしております。

ここにございますように、3社で協働した取り組みでございます。飲料缶メーカー様、飲料メーカー様、そして当社の取り組みでございます。

製錬から製缶におけるCO₂排出量を100としますと、今回の100%リサイクルアルミを使ったプロセスにおいては、約60%のCO₂削減が可能となりました。

循環型社会の実現に向けて、全ての製品を100%循環ということは今まだ困難ではありますが、できることから一つ一つ取り組んでまいります。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



いつでも どこでも あなただけの空間を

「UACJ Innovators」(社内ベンチャー支援制度)事業化案件

ライフスタイル ヘルスケア



日々の暮らしや労働に
軽やかさを...



2022年10月3日から製造・販売開始

製品HP <https://origami.uacj-group.com/>

軽量、コンパクトな折りたたみ構造、「フェーズ・フリー」な使い方が可能なパーソナル・ブース【origami™】

- ・オフィスでは多様な働き方を支えるワーク・スペースとして
- ・災害時の避難所などではパーソナル・スペース確保のために

アルミの軽さを生かした折りたたみ構造だから



搬送や設置が楽

スペースに合わせた移動やレイアウト変更が簡単

使わない時は半分の奥行に折りたためるコンパクト設計

熱伝導性が良いアルミ構造なので、設置場所の空調環境に馴染みやすくブース内が快適

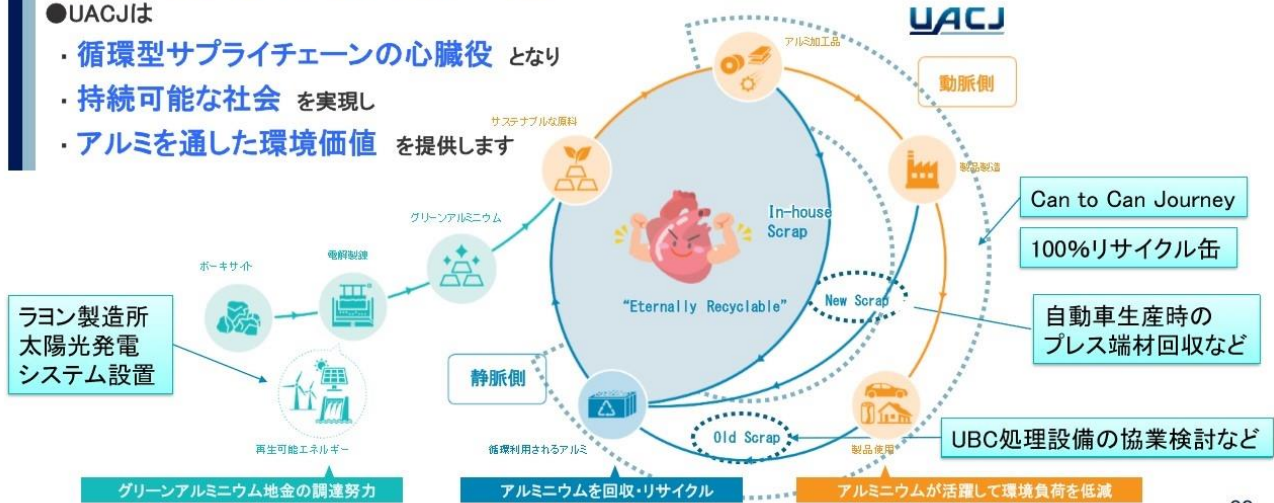
32 ページ目においては、当社がアルミニウムの製品を使いながら、加工という素材プラスアルファの世界で、ライフスタイル・ヘルスケアの分野、ここでは減災、あるいは防災の一つで取り組みを始めた origami™ というものですが、これを今のコロナ禍におけるパーソナルなスペースの確保の貢献ということで、取り組みを始めた事例であります。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

社会課題の解決 - アルミで創る循環の輪～サーキュラーエコノミーの心臓へ

- アルミニウムは『何度でも』『永久に』リサイクル可能な素材です
- UACJは
 - ・循環型サプライチェーンの心臓役 となり
 - ・持続可能な社会 を実現し
 - ・アルミを通した環境価値 を提供します



© UACJ Corporation. All rights reserved.

33 ページ目に示しますように、循環型社会の構築に向けて、アルミニウムで創る循環の輪を目指し、その環境型サプライチェーンの心臓の役割を果たす、そして持続可能な社会を実現する、そんなアルミを通した環境価値を当社は創ってまいります。

地球、社会、人、ESG の推進を経営の中心に据えながら、SDGs の達成、さらに持続可能で豊かな社会の実現に向けて取り組んでまいります。それが USCJ グループの理念の達成にもつながると考えます。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

ESG説明会

2022年11月29日(火) 10:00~12:00

形式 ZOOM開催

登壇者	代表取締役社長	石原 美幸
	取締役常務執行役員	田中 信二
	専務執行役員	山口 明則
	執行役員	隈元 穰治
	サステナビリティ推進部	野瀬 健二

©UMCJ Corporation. All rights reserved.

34

この ESG への取り組みについては、34 ページにございますように、11 月 29 日に ESG 説明会として開催させていただきますので、皆様のご参加をお願い申し上げます。

以上、私からの説明を終わらせていただきます。

上田：当社からのご説明は以上でございます。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

質疑応答

上田 [M]：これより、皆様からのご質問をお受けいたします。

それでは、最初のご質問者をご紹介します。SMBC 日興証券株式会社、山口様、お願いいたします。

山口 [Q]：今日はどうもありがとうございました。よろしくをお願いいたします。3点教えてください。

1点目は、各拠点の通期の売上、営業利益、経常利益、できれば在庫影響含めて、数字を教えてください。それが1点目でございます。

2点目は、先ほど一時的に米国の缶材のマーケットが落ちて、その後戻るというところがよく分からなかったので、一時的に落ちてしまっている背景についても教えていただきたいです。戻るというところも。

ボール社とかクラウン社とか、先日決算が出ていますが、内容があまり芳しくなくて、もちろん燃料費の上昇等もあるのですが、最終需要に関してやや控え目なことを言っていたのですが、肝心の需要の部分が大丈夫かどうか確認です。

3点目は、最近鉄鋼のスチールダイナミクス社とか、アメリカの需給が逼迫するというところで参入しようとしています。御社はまだ、増産の話は具体化していませんが、増産体制が整ったころにはもう需給のバランスが安定してしまっていて、投資の回収ができなくなってしまうリスクはないでしょうか。

以上、3点です。よろしく申し上げます。

飯田 [A]：数値を申し上げます。

まず UATH から申し上げます。億円単位でございます。通期の見通し、売上高は 1,921、営業利益 44、棚卸資産影響前経常利益は 36、経常利益は 8 億円でございます。

続きまして、TAA に移ります。売上高 3,111、営業利益 46、棚卸資産影響前の経常利益 115、経常利益はマイナス 1 でございます。

UWH に移ります。売上高 401、営業利益マイナス 15、棚卸影響前の経常利益マイナス 24、経常利益マイナス 24 でございます。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

以上でございます。

石原 [A]：それでは、2 問目の、北米 TAA における一時的な缶材の落ち込みというお話の中で、少し私の説明の中でご不明な点がおありだということだったのですが、これについては、基本的に当社が北米における市場を TAA と UATH で担っているということがございます。

北米においては、コロナの影響もあって、海上輸送を含めサプライチェーンが大変混乱した時期がございました。この時期の北米の需要は、例えば空缶を輸入したりするような需要であり、米国内だけでは対応できないところがありましたので、UATH から北米に材料を出しておりました。

TAA では基本にご注文をいただいておりますので、全体的な販売量に影響はありません。しかしながら、北米における輸送の混乱が解消し、スムーズに物が入るようになったことから、在庫のダボつきで一時的に在庫が多くなっているため、UATH における生産を少しセーブしているという事情もあります。全体では少しマーケットが落ちているというお話を申し上げましたが、TAA における販売が減るということでは全くございません。

あと、スチールダイナミクス社がアルミニウムに参入するというので、増産の計画があります。13 ページにもございますとおり、当社の北米生産拠点の設備増強を今現在検討しておりますが、これについては既に北米の圧延メーカーの立ち上がりも加味しております。

その結果、需要と供給においてまだまだ供給不足という状況でございますので、当社が北米において生産の増産を活かしても余るということにはならないと確認しております。そのように考えております。

以上です。

山口 [Q]：先ほどの 2 問目の質問に関しては、一時的にそういう混乱があって仮需が生じていたのだけど、そういうものがもう一巡して、一方で仮需があって、少し在庫が積まれてしまったけれども、今後は解消していくという意味ですね。

石原 [A]：はい、そのとおりです。

上田 [M]：ご質問ありがとうございました。

次のご質問は、モルガン・スタンレー MUFG 証券株式会社、白川様、お願いいたします。

白川 [Q]：モルガン・スタンレー証券の白川です。本日はありがとうございました。質問 2 点、よろしくお願いいたします。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



1点目が、今の山口さんが一番はじめに聞いた数字の確認の続きになりますが、TAAについて教えてください。TAAのところ、在庫評価除きで今期が実力ベースの経常利益115億円になるので、下期が差し引き21億円になると思います。上期が94億円、下期が21億円。メタルベネフィットが悪化しているだとか、それが正常に戻っているだとかということもあって、利益が上期・下期で見るとかなり段差がついている格好になっていると思いますが、改めてTAA、これが今の実力損益、つまり継続性が担保されるような最低限の利益をどのように考えているのかを教えてください。これが1点目になります。

2点目が、説明会資料24ページのところでのエネルギー、それから添加金属の転嫁について教えてください。YoYの分析で、エネルギー転嫁で58億円取り戻すということになっています。一方で、エネルギー添加金属の高騰で154億円の悪化影響になっているので、これで見るとまだ100億円ほど転嫁ができていないようにも見えます。

一方で、この販売関係差のところ、91億円を増益要因として織り込んでいるので、これを合わせてみると、ほぼほぼこのエネルギー転嫁、エネルギー、それから添加金属の価格高騰分は、今期、相殺というか、取り戻しているのかなとも見えるのですが、そういう考えで合っているのか。それとも、このエネルギー添加金属の価格転嫁というところは、まだまだ取り漏れがあって、来期以降もここはまだ取っていくと考えたほうがいいのか。この考え方についてまた教えてください。

以上、2点です。よろしくお願いいたします。

飯田 [A]：では、TAAの差益について、ご理解のとおり、上期か下期で変わって見える部分は、一つはメタルベネフィットでございます。これはやはりLMEもありますが、あとはミッドウエスト・プレミアムの減がありまして、率としては変わらないのですが、どうしても絶対額としては少し下がってしまうという面がございます。上期が特に好調であったというのは事実でございます。

一方、下期の特異点といたしましては、2点ございます。一つは金利の影響でございます。これにつきましては、下期に顕著に影響が出てくるということがございます。

もう1点は、ローガンのほうの生産でございますが、下期に補修の費用が集中するところがございまして、これは上・下をならしたほうがいいのかと考えてございます。

いずれにしても、TAAのほうは既に45万トンの生産体制で確立いたしまして、100億ぐらいの経常利益のイメージからは上回っていると考えてございます。

石原 [A]：二つ目の、エネルギーと添加金属の高騰分についての話でございますが、ほぼ下期においては、添加金属、エネルギーとも転嫁ができたかと捉えていただいていると思います。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

以上です。

白川 [Q]：分かりました。

1 点目のところでもうちょっと詳しく教えてほしいのですが、最後のところ、TAA の実力損益の話です。最後のコメントだと 45 万トン達成している中で、以前の数字からは実力として上回っていると思う、というところで、ただ、以前の数字、ここを 1~2 年とかというところを見ても、メタルベネフィットの押し上げ分、下駄を履いている部分は相当値あったと思いますので、もう少し、可能であればいいのですが、定量的に実力値をどのように考えたらいいか。

下期の落ちがかなり大きいので、今言った金利の負担もあるかとは思いますが、停止の部分もあるかと思えます。例えば下期掛ける 2 と来期を織り込んでしまうとかなり減益になってしまいますが、そこはやはり上だと思えますので、そこら辺の考え方のヒントを教えてください。お願いします。

川島 [A]：川島です。

定量的に数字はなかなか難しいので、申し訳ないですが、定性的な話になってしまうのですが、さっき言ったように金利が今上がってしまっているのが、上期から比べると下期は対策が難しいと思っています。

それから、もう一つあるのは、エネルギー代です。アメリカの場合は既にフォーミュラが定まっています、転嫁はできるのですが、1 年遅れになってしまっています。そうすると、2022 年の、例えば前半のエネルギーの上昇等は、2023 年に効いてくるというところの影響もあると考えています。

だから、この下期の 24 億円掛ける 2 という考え方ではなくて、もともとで 100 億円は出てこないとならないと考えます。このぐらいの金額は 45 万トンの生産体制があります。それから、先ほども質問がありましたが、需要自体は右肩上がりばかりではありませんから、少し上がりすぎると少し修正がされるという形の中で見ると、下期は、年率が上がっている形から比べると少しダウンしていることは通常どおりだと考えております。年間では 100 億円ぐらいの数字が目標として出せるだろう、出さねばならないだろうと考えております。

白川 [M]：よく分かりました。ありがとうございます。

上田 [M]：ご質問ありがとうございました。

次のご質問は、UBS 証券株式会社、五老様、お願いいたします。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



五老 [Q]：UBS 証券の五老です。よろしくお願いします。

まず1点目です。今の白川さんのご質問のところも含めてですが、価格転嫁は全部到達しましたというご説明、従来から注力されていた施策を達成できたというご説明になっているわけですが、結果として、この部分が来期の増益要因として寄与すると考えていいのか。面積ベースでのギャップというのが、考え方が出てきてしまうと思います。上期はまだ全部達成していなかったわけですので、来年以降、確かにそのタイムラグとか期ずれの部分には注意は必要だと思いますが、単純に言うともマイナスとプラスの部分のギャップ部分を、来期に取り戻す余地ありという見方をすればいいのかどうかというところが1点です。

もう1点目は、構造改革効果210億、計画に沿って達成したというところでは、その刈り取りは、年度比較の増減益要因ウォーターフォールの分析ではいろいろなところに含まれてしまっていて、やや見えなくなっているところがあります。達成した成果として期中に立ち上げていた、例えば福井製造所のCALPの貢献などもあると思いますし、立ち上がったこの構造改革効果の刈り取り分の来期以降に効いてくる増益余力といえますか、それについて数字があるようであれば、定性的でも構いませんので、解説してください。

以上、2点よろしくお願いします。

石原 [A]：ありがとうございました。

価格転嫁の分については、いわゆるエネルギー、添加金属のサーチャージの分は、基本的にゼロになるというか、持ち出しが戻ってくるということになりますので、そういったタイムラグの話はありますが、この分が来期の増益につながるということではないと考えます。

一方で、ロールマージンの改定も行われましたので、このロールマージンの改定分が、今回の2022年度の上期と対象がなくなっている分、2023年度の上期からそういった改善が見込まれると見ています。

210億の刈り取りについては、構造改革を担当する田中からお答え申し上げます。

田中 [A]：田中です。

構造改革の効果の210億につきましては、おおむね計画どおり進捗中ということでご説明させていただきました。

来年度以降については、またこれはさらに詳細を見ていく必要がありますが、今この210億の刈り取りとともに、同時並行して、さらに上乘せした追加施策を積み上げています。今はこの積み上

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



げの段階にありますので、この積み上げの段階がもう少し定まったところで、来年度以降、さらに210億に上乘せして、どれぐらい出せるかを検討していきたいと考えています。

来年度以降も増産効果を見込んでおりますので、必然的に210億プラスアルファ、それから今考えている、追加施策をさらにどれだけ積み上げられるかというようになっていくかと思えます。

石原 [A]：石原です。

少し付け加えて、CALPを例にお話をしますと、まだ操業度は100%になっておりません。今後コロナの影響等々が改善されていって、CALP操業が100%操業に近くなっていけば、現在を上回る利益がそれに乗っていくと考えます。

川島 [A]：川島です。ちょっと1点だけ整理させていただきます。

先ほどの、前の白川さんの質問にもありましたが、2021年度と2022年度見通しのウォーターフォールの中で、販売の関係でプラス91億円、それからエネルギーのギャップでマイナス。それがプラスマイナスで消えますねというのはもともと中身が違って、販売関係差は、環境対応を踏まえた純粋な形で昨年8月以降にロールマージンの改定をして、それが今年は年間効いていると考えています。

それから、エネルギーのところについても、先ほど社長が申しましたように、全部転嫁できると。ただし、タイムラグがあるので、今期については年初から高かったために、フルに取られていました。それに対してお客様のお願いは、先ほど社長からもありましたが、価格転嫁の開始を10月以降とした。このギャップがあるので、今年についてはその差が出ています。実際に差がなくなれば、社長が申したように、プラマイゼロになるということでご理解していただければと考えております。

五老 [Q]：構造改革のところで確認です。売上数量見通しを引き下げられている需要の見方で、自動車などの下振れに対応されているというところだと思いますが、数量が下振れる中で利益をこの計画どおり出せる要因は、入り繰りがあつたら解説いただけますでしょうか。

田中 [A]：数量構成のところについていうと、やはり自動車はかなり下振れしております。その一方で、缶材のところでかなり挽回しているというところで、こちらのほうが缶材と自動車のところで一部相殺しているというところがございます。

それから、構造改革全体という見方でいうと、国内と海外に分かれるのですが、海外の中では相当入り繰りが実は発生しています。自動車材を中心に、UWHのところでも大きくマイナスです。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



一方で、先ほどから出ていますように、TAA のところ、メタルベネフィットが中心になりますが、ここで大きく挽回ということで、中の入り繰りは相当、国内でも海外でも発生しておりますが、全体としては何とかこの 210 億、プラスアルファのところに着地するだろうと考えています。

五老 [M]：よく分かりました。ありがとうございました。

上田 [M]：ご質問ありがとうございました。

次のご質問は、野村証券株式会社、松本様、お願いいたします。

松本 [Q]：野村証券の松本でございます。よろしく申し上げます。

UWH の業績がちょっと思わしくない感じがするのですが、この背景は数量が少し遅れているということ、サプライチェーンの混乱等ということだけなのか、何か詳細を教えてくださいたいです。あと、大体いつぐらいから黒字化が見えているのか。例えば今年の第 4 四半期にはちょっと黒字になりそうとか、何かそういうところを教えてください。

2 点目は、北米のほうの缶材の調整のお話です。これは業績としては、さっき UATH からの供給が少し減るみたいなお話の印象を受けたのですが、業績的には TAA の業績に影響があるのでしょうか。お話を聞くと、UATH の数量が減るような印象があるのですが、UATH の業績が計画も割とよさそうな感じがしているので、その辺の数量が調整しているのは、どこの法人に利益として影響が出てくるのか。

石原 [A]：石原です。

まず UWH の業績についてですが、2021 年度第 4 四半期単独で黒字化をしました。それで、2022 年度も通年で黒字化を目指しました。

ところが、半導体影響ですとか、上海のロックダウンだとか、さまざまな自動車関連に関わるサプライチェーンの混乱があって、現在に至っているのですが、先ほど申しましたように、2022 年の 9 月以降、日系 OEM 向けの量産も始まりましたし、米国 EV メーカーの生産が少し遅れているという影響が出ているものの、ほぼ 2022 年度第 4 四半期以降にはこれが貢献してきて、もう一度黒字化に戻っていくという予想はできております。2022 年度第 4 四半期から、それ以降の黒字化は達成していきたいと考えておりますし、その予想が立てることはできていると思います。

川島 [A]：川島からお答えします。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



まず基本的には、生産は UATH でしていますので、その影響は基本的には UATH が受けると考えてください。今期だけ考えるとギャップがあるのは、決算期が 3 カ月ずれているためで、そのスプレッドが少しずれてしまっているというところもあると思います。

ただ、ご質問については、基本的には生産をしているところは UATH でございますから、損益のところについては UATH が大きく影響を受けると考えてください。

松本 [Q]：TAA はまだフル稼働を維持できているという理解でよろしいですか。

川島 [A]：はい、それでいいです。結構です。

松本 [M]：分かりました。ありがとうございました。

上田 [M]：ご質問ありがとうございました。

次のご質問は、大和証券株式会社、尾崎様、よろしくお願いいたします。

尾崎 [Q]：大和証券の尾崎でございます。よろしくお願いいたします。

まず 1 点目が、全社ベースで見た実質経常利益、上期で 139 億ですが、第 1 四半期が 102 億に対して、第 2 四半期が 37 億までかなり減っているのですが、この背景を教えてくださいというのが 1 点目です。

2 点目が UWH の、14 ページ目の資料を拝見していますが、この上期、前年同期比ではかなり売上が増えているのに赤字が拡大をしてしまっている理由をご解説いただけないでしょうか。

以上、2 点お願いいたします。

川島 [A]：では、川島から。概略で、第 1 四半期 102 億で、第 2 四半期 40 億というところですが、まずベースを考えたときに、第 2 四半期というのは夏休みがあったりするものですから、そもそも稼働率が落ちます。通常るときでも第 1 四半期から比べれば、第 2 四半期の損益は悪化をするということがまずベースにあります。それがまず一つありました。

それから、やはりエネルギー代などが少しずつ遅れて入ってくるので、第 1 四半期のときよりも第 2 四半期でインパクトが大きかった部分があったり、それから海外の損益も、そのブレは若干ありますので、第 1 四半期から比べると第 2 四半期は少し損益が悪化してしまったりというのが、定性的ですが、概略と考えていただければいいかと思います。

それから、UWH ですが、売上高が増えているのは、基本的には地金価格が上がっているからと考えていただければいいと思っています。先ほど社長からもありましたように、注文はずいぶんあり

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



まして、期初から注文が来て販売できるかなと思ったら、車の生産の影響で後追いになっているところ、販売数量自体は順調ではありませんが、売上高自体は地金価格が上がってしまっていることから表面的に上がってしまっていると考えていただければと思います。

尾崎 [M]：分かりました。ありがとうございました。

上田 [M]：ありがとうございました。

予定のお時間がまいりましたので、本日の説明会は終了させていただきます。今後のお問い合わせにつきましては、IR 部までお願いいたします。

以上をもちまして、株式会社 UACJ、2022 年度第 2 四半期決算説明会を終了いたします。本日はご参加いただき、ありがとうございました。

今後も、株主をはじめとするステークホルダーの皆様のご期待に沿えるよう、まい進してまいりますので、引き続き弊社をご支援、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

本日はお忙しい中お集まりいただき、誠にありがとうございました。

[了]

脚注

1. 音声不明瞭な箇所に付いては[音声不明瞭]と記載
2. 会話は[Q]は質問、[A]は回答、[M]はそのどちらでもない場合を示す

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



免責事項

本資料で提供されるコンテンツの信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性等について、当社は一切の瑕疵担保責任及び保証責任を負いません。さらに、利用者が当社から直接又は間接に本サービスに関する情報を得た場合であっても、当社は利用者に対し本規約において規定されている内容を超えて如何なる保証も行うものではありません。

本資料または当社及びデータソース先の商標、商号は、当社との個別の書面契約なしでは、いかなる投資商品（価格、リターン、パフォーマンスが、本サービスに基づいている、または連動している投資商品、例えば金融派生商品、仕組商品、投資信託、投資資産等）の情報配信・取引・販売促進・広告宣伝に関連して使用してはなりません。

本資料を通じて利用者に提供された情報は、投資に関するアドバイスまたは証券売買の勧誘を目的としておりません。本資料を利用した利用者による一切の行為は、すべて会員自身の責任で行っていただきます。かかる利用及び行為の結果についても、利用者自身が責任を負うものとします。

本資料に関連して利用者が被った損害、損失、費用、並びに、本資料の提供の中断、停止、利用不能、変更及び当社による本規約に基づく利用者の情報の削除、利用者の登録の取消し等に関連して会員が被った損害、損失、費用につき、当社及びデータソース先は賠償又は補償する責任を一切負わないものとします。なお、本項における「損害、損失、費用」には、直接的損害及び通常損害のみならず、逸失利益、事業機会の喪失、データの喪失、事業の中断、その他間接的、特別的、派生的若しくは付随的損害の全てを意味します。

本資料に含まれる全ての著作権等の知的財産権は、特に明示された場合を除いて、当社に帰属します。また、本資料において特に明示された場合を除いて、事前の同意なく、これら著作物等の全部又は一部について、複製、送信、表示、実施、配布（有料・無料を問いません）、ライセンスの付与、変更、事後の使用を目的としての保存、その他の使用をすることはできません。

本資料のコンテンツは、当社によって編集されている可能性があります。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com